

オペレーターズマニュアル

KX523

スノーブローア





500 Venture Drive
Orrville, OH 44667
www.ventrac.com

すべてのマニュアル
を見る



最新のオペレーターズマニュアルはこちらへ:
ventrac.com/manuals
パーツマニュアルもダウンロードできます。

オーナー様へ ご連絡をいただく際に必要となる情報

製品の修理等について、Ventrac 正規販売店にお問い合わせされる場合は、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。

以下に必要情報をメモしておきましょう。製品の銘板は、下の写真に示す位置にあります。下のメモ欄に記録しておいてください。

購入日: _____

販売店名: _____

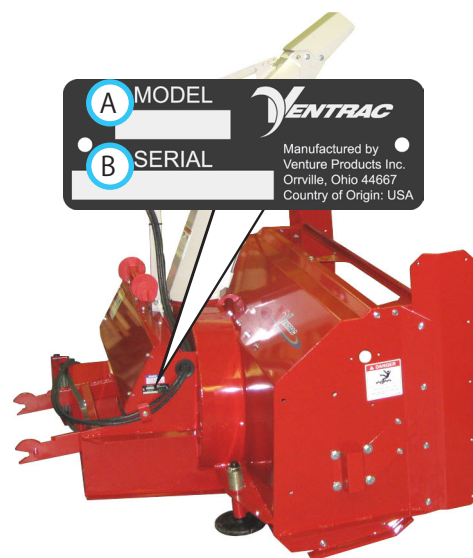
販売店の所在地: _____

販売店の電話番号: _____

販売店の FAX 番号: _____

モデル番号 (A): _____

シリアル番号 (B): _____



Venture Products Inc. は、設計・仕様を変更する権利を留保します。弊社は、過去に製造された製品に対してかかる変更を行う義務を負いません。

目次

はじめに	PAGE 5
製品の説明	5
オペレーターズマニュアルが必要な理由?	5
マニュアルのご使用方法	6
マニュアル用語	6
安全関係	PAGE 7
基本的な安全対策	7
必要なトレーニング	7
個人用保護具(PPE)の装着義務について	7
運転時の安全確保	7
人を乗せない	9
傾斜地での運転	9
トラックやトレーラによる搬送	10
メンテナンス	10
燃料の安全について	11
油圧機器の安全について	12
KX523の基本的な安全対策	13
安全デカル	14
運転装置	PAGE 17
排出シュートの回転	17
排出シュートのデフレクタの調整リンク	17
排出シュートのデフレクタの調整用アクチュエータ(オプション)	17
運転操作全般について	PAGE 18
日常点検	18
アタッチメントの取り付け	18
アタッチメントの取り外し	18
運転操作	18
アタッチメントを搬送する時	19
排出シュートの回転	19
排出シュートのデフレクタの調整(手動で)	19
排出シュートのデフレクタの調整(オプションのアクチュエータコントロールを使って)	19
後スキッドシューの調整	19
前スキッドシューの調整	20
左右のエッジの調整	20
詰まりを解消するとき	21

目次

整備	PAGE 22
機体の清掃と一般的な保守整備作業	22
エッジの上下反転/交換	22
スキッドシューの交換	22
ベルトの点検	22
アタッチメント駆動ベルトの交換	22
ギアボックスの駆動ベルトの交換	23
オーガ駆動ベルトの交換	23
ファン駆動ベルトの交換	24
深雪オーガ駆動ベルトの交換	25
ベルトのテンションの調整	25
潤滑ポイント	25
ギアボックスオイルの量の点検	26
ギアボックスオイルの交換	26
格納保管	26
整備スケジュール	27
定期整備チェックリスト	27
仕様	PAGE 28
寸法	28
特長	28

はじめに



Venture Products Inc. より、謹んで Ventrac の新しいスノーブローをお届けいたします!Ventrac の機器が、お客様にワントラクタソリューションをお届けできることを祈念しております。

お買い上げいただいたスノーブローアと組み合わせ可能な製品すべてを、弊社ウェブサイトでご覧いただくことができます。正規販売店でもご紹介可能です。

アクセサリ	説明	パーツ番号
	12V アクチュエータキット* (延長排出部のコントロール用)	70.8025
	深雪トップオーガキット	70.8072

*パワーユニットに、12V フロントスイッチ & プラグキットを装備する必要があります。お手元のパワーユニットに対応するキットについては、Ventrac ウェブサイトまたは代理店にてご確認ください。

製品の説明

Ventrac KX523 スノーブローアは、歩道、自動車進入路などの除雪を行う業務用の機器として製造された製品です。大出力の2段式除雪機で、大量の雪を手早く遠くへ飛ばすことができます。

直径 40.6 cm の大型オーガーで雪を高速ファンに送り込み、最大 12.2 m まで雪を飛ばすことができます。

排出シュートの向きは油圧制御式で、パワーユニットの運転席にすわったままで排出方向をコントロールすることができます。

オプションの 12V アクチュエータを取り付けると、座席に座ったままで投雪距離をコントロールすることが可能になります。

豪雪地帯でのご使用には、オプションの深雪(トップオーガ)キットをお奨めします。これは、メインのオーガの上部に小型のオーガを取り付けて、深く積もった雪を効率よく除雪できるようにしたものです。

オペレーターズマニュアルが必要な理由?

このマニュアルは、お買い上げいただいた機械を安全に運転操作し維持管理するために必要な重要な知識を身につけ、けがや製品の破損を防止するためのものです。知りたい情報をすぐ探せるように、いくつかの章に分けて作成されています。

Ventrac の機器それぞれについて、該当する取扱説明書をお読みにになり、内容を理解してください。マニュアルをお読みにすることで、それぞれの機器に精通することができます。マニュアルが破損したり読めなくなったりした場合は、すぐに交換してください。お近くの Ventrac 売店で新しいマニュアルを入手していただけます。

Ventrac のアタッチメントを使用する際は、パワーユニットとアタッチメントの両方のマニュアルを読んで安全確保と正しい運転操作について学び、安全作業を心掛けてください。

このマニュアルには、機械の最も安全な運転方法と、機械の性能をを最大限に引き出すための情報が掲載されています。記載されている安全上の注意事項を守らないと、人身事故や機器の故障・損傷の原因となります。

はじめに

マニュアルのご使用方法

このマニュアルでは、人身事故や機械の損傷などを起こすことなく製品をお使いいただくことができるように、安全上の懸念となるような潜在的な危険について説明しております。機械をお使いいただく際は、常に安全第一を心掛ける必要があります。適切な作業手順を守り、十分に運転操作経験を積んで、事故防止に努めてください。

記号の説明



この記号は健康や安全に関する危険が潜んでいることを意味します。すなわち安全に関わる注意事項をお伝えするものです。あなたと他の人の安全に関わる内容です。

危険の度合いを表す3種類のキーワードがあります。危険、警告、注意、です。

キーワードの意味

⚠ 危険

危険は、人の生命に関わる重大な潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こります。危険の度合いが非常に大きい場合に、この言葉が用いられます。

⚠ 警告

警告は、人の生命に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないと死亡事故や重大な人身事故が起こる恐れがあります。

⚠ 注意

注意は、安全に関わる潜在的危険を意味します。この注意を守らないとけがや物損事故をおこす可能性があります。安全でない行動や取扱い方法に対して注意を促す場合にも用いられます。

この他に2つの言葉で注意を促しています。**注意事項**は、製品の機械的特徴などについての注意点、損傷や失敗を避けて手際よく作用するためのコツなどを示します。

注はその他の一般的な注意点を表しています。

注:このマニュアルでは、左右を表す方法を以下のように統一しております。左右は常に運転席に座って前を向いている状態を基準として表現されます。

マニュアル用語

パワーユニット Ventracトラクタやその他の Ventrac 製品でエンジンを搭載して自走することが可能な機械。アタッチメントやアクセサリを搭載することができる動力機械。

アタッチメント Ventrac 製品のうちで、パワーユニットによって駆動させる機械

アクセサリ パワーユニットやアタッチメントに取り付けて使用する機械

マシン パワーユニットと共に用いられるアタッチメントやアクセサリ

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

必要なトレーニング

- 本機のオーナーは、オペレータに適切なトレーニングを施すことについて全責任を負います。
- 本機のオーナー・オペレータは、本機の運転操作に伴って発生する、すべての人身事故・物損事故の防止および結果について全責任を負います。
- トレーニングを受けていない人や子供に運転操作をさせたり修理整備をさせないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 本機を運転する前に、オペレーターズマニュアルを読んで内容を十分理解してください。
- オペレータがマニュアルの内容を理解できない場合は、オーナーの責任において、内容を十分に理解させてください。
- 運転に必要なすべての装置について、その使い方を学び、理解してください。
- パワーユニットやアタッチメントを緊急停止させる方法を知っておいてください。

個人用保護具 (PPE) の装着義務について

- オーナーは、本機を運転するすべてのオペレータに、適切な防具 (PPE) を着用させる責任があります。本機を使用するときは、必ず以下の PPE を使用してください。
- 目 (視覚) と耳 (聴覚) の保護具 (認定品)。
- つま先が閉じている滑り止め機能のある履物。
- 長ズボン。
- マスク (ほこりの多い場所で作業する時)
- その他、状況に応じて必要となる保護具。その他の要件については、製品の安全についての章を参照してください。

運転時の安全確保

- 長い髪は束ねてください。だぶだぶの服装は避けてください。アクセサリは身に着けないでください。
- 運転前点検を行ってください。破損したり欠落、摩耗している部品は交換してください。ガードやシールド類がすべて適正位置に取り付けてあり、正常に機能することを確認しましょう。運転に必要な調整は、運転開始前に済ませましょう。
- 本書では、説明の都合上、シールドやカバーを外すなどした写真を使用していることがあります。どんな場合にも、運転時にはシールドやカバーを必ず取り付けてください。
- 本機に改造や変更を加えると、安全性が低下し本機を破損させる恐れがあります。安全装置を改造しないこと、シールドやカバーを外したままで運転しないことをお守りください。
- 毎日の運転開始前に、運転装置がすべて正しく機能すること、安全装置がすべて正常に機能していることを確認してください。運転装置や安全装置が正常に機能していない場合は、運転しないでください。
- 運転前に、駐車ブレーキの機能点検を行ってください。必要に応じて駐車ブレーキの修理や調整を行ってください。
- 安全デカルに記載されているすべての注意事項を守ってください。
- どの運転装置も、運転席以外からは操作できないようになっています。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- RPOS 搭載機では、ROPS を真っ直ぐに立てた状態で固定し、必ずシートベルトを着用して運転してください。
- 運転前に、アタッチメントやアクセサリがパワーユニットに確実に取り付けられていることを確認してください。
- 運転開始前に、パワーユニットとアタッチメントの周囲に人がいないことを確認してください。作業場所に人が入ってきたら機械を停止させましょう。
- 運転操作に集中しつつ、常に周囲の状況に注意を払ってください。常に機械の進行方向を注視してください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- マシンが何かにぶつかったら、すぐに停止して点検してください。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- 故障や破損の気配に気づいたら、直ちに運転を停止してください。運転音が通常と異なるのは破損や故障の徴候の場合もあり、また整備をすれば直る場合もあります。破損箇所は必ず修理してから、運転を再開するようにしてください。
- ハイ・ローレンジ機能のあるマシンの場合、傾斜地では絶対にレンジの切り替えをしないでください。シフトは必ず平地で、駐車ブレーキをかけた状態で行うこと。
- 装置が動作中は機械から離れない。
- 駐車する時は必ず平らな場所に駐車してください。
- アタッチメントの駆動ベルトをパワーユニットに取り付ける時は、必ずエンジンを停止してください。
- 運転席を離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。すべての可動部が完全に停止するまで、運転席を離れないでください。
- マシンから離れる場合には、必ず、アタッチメントを地表面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。
- 十分な明るさのない場所で運転しないでください。
- 落雷の危険がある時には運転しないでください。
- アタッチメントから放出される刈りかすなどを、人や建物、動物、車などに向けしないでください。
- 壁やなどにも向けしないでください。壁などに当たった異物が飛んできてけがをする恐れがあります。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立ち木などの障害物の近くでは十分に安全に注意してください。
- 締め切った場所では、エンジンを運転しないでください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーに触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどの可燃物がたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。
- マシンにぶつかったり、当たって跳ね飛ばされたりする可能性のあるものを作業場所に置かないようにしてください。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- 作業場所に、無用の人間やペットなどを近づけないでください。
- 作業を始める前に、作業場所をよく観察してください。安全に走行できるか、転倒の危険がないか、わからない場所では運転しないでください。
- 不整地では速度を落としてください。
- 不適切な運転は、重大な人身事故や死亡事故につながります。運転前に、パワーユニットと、使用するアタッチメントを安全に運転操作する方法を十分に理解してください。
- 体調が悪い時や気分がすぐれない時、スマホなどの機器に対応しなければならないことが予想される時、判断力や反射的な動作に影響が出るような物質を摂取した時は、運転しないでください。
- 子供はマシンに非常に興味を持つものです。子供に注意し、作業場所に入れないようにしてください。子供が近づいてきたらマシンを停止させてください。
- パワーユニットやアタッチメント、アクセサリは、公道を走行することを目的としておりません。絶対に公道上や高速道路上で運転しないでください。
- 道路の近くで運転するときは、安全灯を点灯してください。
- 道路付近での運転や道路を横断する場合は、速度を落とすとして、周囲の交通に十分注意してください。道路や歩道を横断するときは、一旦停止してください。視界が遮られる場所やその近くでは、安全に十分注意してください。

人を乗せない

- パワーユニットに乗れるのはオペレーター一人だけです。他の人を乗せないでください。
- アタッチメントやアクセサリにも、絶対に人を乗せないでください。

傾斜地での運転

- 斜面はスリップや転倒などを起こしやすく、これらは重大な人身事故につながります。パワーユニットの運転装置に十分に慣れると共に、緊急ブレーキをいつでも使えるようになってください。
- 折りたたみ式の ROPS が装備されているマシンを傾斜地で運転する時は、ROPS を立ててロックしておく必要があります。
- 傾斜が 15 度を超える場所で（ローレンジが使えるマシンでは）ローレンジで運転してください。
- 傾斜地では、急停止や急発進をしないでください。
- 傾斜地では絶対にハイ・ローレンジの切り替えをしないこと。レンジの切り替えや、パワーユニットをニュートラルにする時には、必ず平地に移動し、駐車ブレーキを掛けてください。
- 濡れた路面やぬかるみなどは、安全性を低下させます。立ち往生する可能性のある場所や転倒する可能性のある場所では運転しないでください。
- 危険な地形や見えにくい危険個所に注意してください。
- 段差、溝、堤防などには近づかないでください。
- 傾斜地で運転している時は、急旋回をしないように注意してください。
- 傾斜地での牽引作業は安全性が低下します。傾斜地では、オーナー/オペレータの責任において、安全に作業ができる限界荷重を決定してください。
- 移動走行する場合は、安定性を高めるため、アタッチメントを下げた状態または地表面にできるだけ近くまで下げてく

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



ださい。

- 傾斜地では、可能な限り登り下り方向で運転してください。傾斜地を走行中に曲がる必要がある場合は、速度を落とし谷側へゆっくりと曲がってください。
- 運転中に燃料切れを起こさないよう、十分な量の燃料を積んでおいてください。推奨燃料積載量は最低でもタンク 1/2 です。

トラックやトレーラによる搬送

- トレーラやトラックにマシンを積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- トレーラやトラックに積み込む際には、機体と同じ幅のある歩み板を使用してください。
- 搬送中のマシンは、駐車ブレーキだけで完全に固定することはできません。必ず、ストラップ、チェーン、ケーブル、ロープなどで、パワーユニットとアタッチメントを運搬車両にしっかりと固定してください。機体の前後に取り付けた固定ロープは、どちらも、機体を外側に引っ張るように配置してください。
- 搬送中は、パワーユニットの燃料バルブを閉めておいてください。
- バッテリー遮断スイッチのあるマシンでは、スイッチを OFF にして、通電を遮断してください。

メンテナンス

- 安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。
- デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。
- 新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。
- 交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用してください。
- 修理を行う前に、必ずバッテリー遮断スイッチを OFF 位置にするか、バッテリーを取り外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。接続するときにはプラス端子に先に接続し、次にマイナス端子に接続してください。
- ボルト、ナット、ねじなどの締結具にゆるみが出ないように維持してください。
- アタッチメントは必ず床面まで降下させ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。清掃、点検、調整、修理などの作業は、すべての可動部が完全に停止したのを確認してから行ってください。
- パワーユニット、アタッチメント、アクセサリの修理方法や調整方法がオペレーターズマニュアルに記載されていない場合、それらの作業は Ventrac 正規販売店が行う必要があります。
- 運転席に人がいるときは、絶対にパワーユニットやアタッチメントに対する作業を行わないでください。
- バッテリーを取り扱うときは、必ず保護めがねを着用してください。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- バッテリーコンパートメント、エンジンルーム、マフラーの周辺などに刈りかす、落ち葉、大量のグリスなどがたまると火災の恐れがありますから、こまめに掃除してください。

安全関係



基本的な安全対策



Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために

- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの排気系統に触れないでください。これらの部分は高温になっており、触れると火傷を負う危険があります。
- マシンを格納する際にはエンジンが十分冷えていることを確認し、また裸火の近くを避けて保管してください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を規定以上に上げたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故の危険が大きくなります。
- スプリングには、エネルギーが蓄積されている場合があります。スプリングやバースプリング付き部品を取り外すときは注意してください。
- 駆動系や可動部・回転部に障害物や詰まりなどがあると、エネルギーが蓄積されていることがあり、それらの障害物や詰まりを取り除いた時、駆動系や可動部・回転部が急に動くことがあります。障害物や詰まりを手で取り除こうとしないでください。動力部には手、足、衣服などを近づけないでください。

燃料の安全について

- 人身事故や物損事故を防止するために、ガソリンの取り扱いには細心の注意を払ってください。ガソリンは非常に引火・爆発しやすい物質です。
- 喫煙しながらの給油、裸火や火花の近くでの給油はしないでください。
- 給油は必ず屋外で行ってください。
- 燃料や酸化した燃料が、裸火、火花、種火などに到達するような屋内で、マシンや燃料容器を保管しないでください。
- 燃料は必ず認定された容器に保存してください。子供の手の届くところに保管しないでください。
- トラックの荷台に敷いたマットなどの絶縁体の上では絶対に燃料の給油をしないでください。容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油してください。
- 給油は、マシンをトラックやトレーラから地面に降ろし、機体を接地させた状態で行ってください。マシンを車両に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には、大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油してください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしないでください。エンジンが冷えてから給油してください。
- 傾斜地では絶対に燃料キャップを開けないでください。必ず、平らな場所に駐車してから開けるようにしてください。
- 給油後は、燃料タンクのキャップと燃料容器のキャップを確実に閉めてください。
- 燃料を入れすぎないでください。給油は燃料タンクの補給管の根元までとし、補給管一杯まで入れないでください。燃料タンクに燃料を入れ過ぎると、エンジン側に燃料があふれ出たり、タンクから燃料が漏れたり、燃料蒸気制御装置を損傷させたりする恐れがあります。
- 燃料がこぼれた場合、エンジンを始動させないでください。こぼれた場所からパワーユニットを離し、燃料が完全に気化して拡散してしまうまで、火気の使用を控えてください。
- 燃料タンクから燃料を抜き取る必要がある場合は、屋外で、認定された容器に排出することが必要です。
- 定期的に、燃料ラインとその取り付け具合、摩耗の有無を点検してください。必要に応じて締め付けや修理を行ってください。
- 燃料系統には燃料バルブが付いています。マシンを修理工場などへ搬送するとき、屋内に駐車するとき、は燃料系統の整備を行うときは、燃料バルブを閉じてください。

安全関係

基本的な安全対策

Ventrac の動力機器、アタッチメント、アクセサリを取り扱うために



油圧機器の安全について

- 油圧接続部にゆるみが無いように、またすべての油圧ホースとチューブを良好な状態で維持してください。オイル漏れが発見された場合は、必ず修理し、損傷や劣化したホースやチューブを交換してから運転してください。
- 油圧のオイル漏れには、高圧が掛かっている可能性があります。したがって油圧オイルの漏れには特別の注意が必要です。
- オイル漏れ箇所を探すときは、段ボールと拡大鏡を使ってください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけないでください。高圧で噴出するオイルは皮膚を突き破って重大な傷害を引き起こし、放置すると重篤な合併症や二次感染につながる恐れがあります。万一、油圧オイルが皮膚に入ってしまった場合は、どんなに軽傷でも直ちに医師の診察を受けてください。
- 油圧システムは内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの整備や修理を行う前には、すべてのアタッチメントを外し、駐車ブレーキブレーキをかけ、重量移動システム搭載機ではシステムを解除し、エンジンを停止し、イグニッションキーを抜き取ってください。パワーユニットのエンジンを停止し、油圧コントロールレバーを左右に動かして補助油圧システム内の油圧を解放し、その後に補助油圧クイックカップラの接続を外してください。

安全関係



KX523 の基本的な安全対策



- このブローは手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。以下に挙げる注意事項を守らないと、大けがをする恐れがあります。
- スキッドシューを調整するときは、必ずスノーブローを確実に固定しておいてください。
- スノーブローのハウジングは、その機能上、前面が開いており、オーガが露出しています。運転しながら、樹木やポールなどの静止した障害物に近づくときは、十分な注意が必要です。
- 回転部に手足を近づけないよう注意してください。どんな時でも、排出口の近くに手足などを近づけないでください。
- ブローのシュートから放出される雪を、絶対に人や建物、動物、車などに向けしないでください。シュートから異物が飛び出して物を損傷したり、重傷、死亡事故の原因になることがあります。
- 人がいる近くでは絶対に運転しないでください。凍結した雪、氷、砂利などが飛ばされると非常に危険です。
- 機械の運転は作業場所をよく知っている人が行い、事前に十分な準備を行っておいてください。雪が降る前に境界杭を適切に設置し、また、雪で隠されてしまう目印その他の障害物を取り除いておいてください。縁石、オフセット、段差、マンホールカバー、舗装の破損や盛り上がりなどに注意して作業してください。冬の除雪シーズンが到来する前に除雪予定エリアの地図を作成し、危険箇所などを事前に確認できるようにしておきましょう。
- 不慣れた場所を清掃する場合は、作業速度を落とし、「十分に注意」してください。作業場所の危険についてよく知っている人に聞くなどして情報収集をしましょう。
- 除雪作業は、なるべく風向きに合わせて行いましょう。風に向かって投雪すると遠くへ飛ばせないだけでなく、視界が遮られてしまいます。
- 視界が悪くなったら、必ず作業を中止してください。キャブを搭載したトラクタでは、フロントガラスが視界の妨げにならないように、きれいに維持する必要があります。
- 視界を遮るような障害物の周囲での作業には、十分注意してください。
- 雪の下の障害物に機械が衝突した時にオペレーターが負傷したり、機械が損傷するような速度では絶対に走行しないでください。
- 滑りやすい路面では、絶対に高速での移動をしないでください。
- 詰まりが発生した場合、オペレータ以外の人に排出口を開かせないでください。詰まりを取り除く時は、必ず、ブローを地面まで降下させ、パワーユニットの駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを取り外してください。
- スノーブローに関わる人身事故の原因として最も多いのは、排出シュート内に手を入れ回転ファンに触れることです。絶対にシュートに直接手を入れしないでください。詰まりを取り除く時は、付属のシュートクリーニングツールを使ってください。
- 詰まりを取り除くためにシュートガードを開けた場合は、運転を再開する前に必ずガードを閉じて固定してください。
- 運転する時は必ず適切な防寒具を着用してください。可動部に巻き込まれる可能性のあるダブついた服装は避けてください。滑りやすい雪道で足元をしっかりと確保できる靴を履いてください。
- 除雪中以外は、パワーユニットの PTO を切っておいてください。
- 排出シュートのデフレクタの角度を変更する場合は、必ずパワーユニットの PTO を切り、駐車ブレーキを掛けてから降車してください。
- アタッチメントの油圧システムは、その内部にエネルギーを蓄積している場合があります。油圧システムの保守や修理を行う前には、アタッチメントの補助油圧ホースをパワーユニットから取り外す必要があります。アタッチメントを床面まで降下させてパワーユニットのエンジンを止め、2次 SDLA レバーを左右に何度か動かして補助油圧回路内部の圧力を解放した後、補助油圧クイックカップラを外してください。

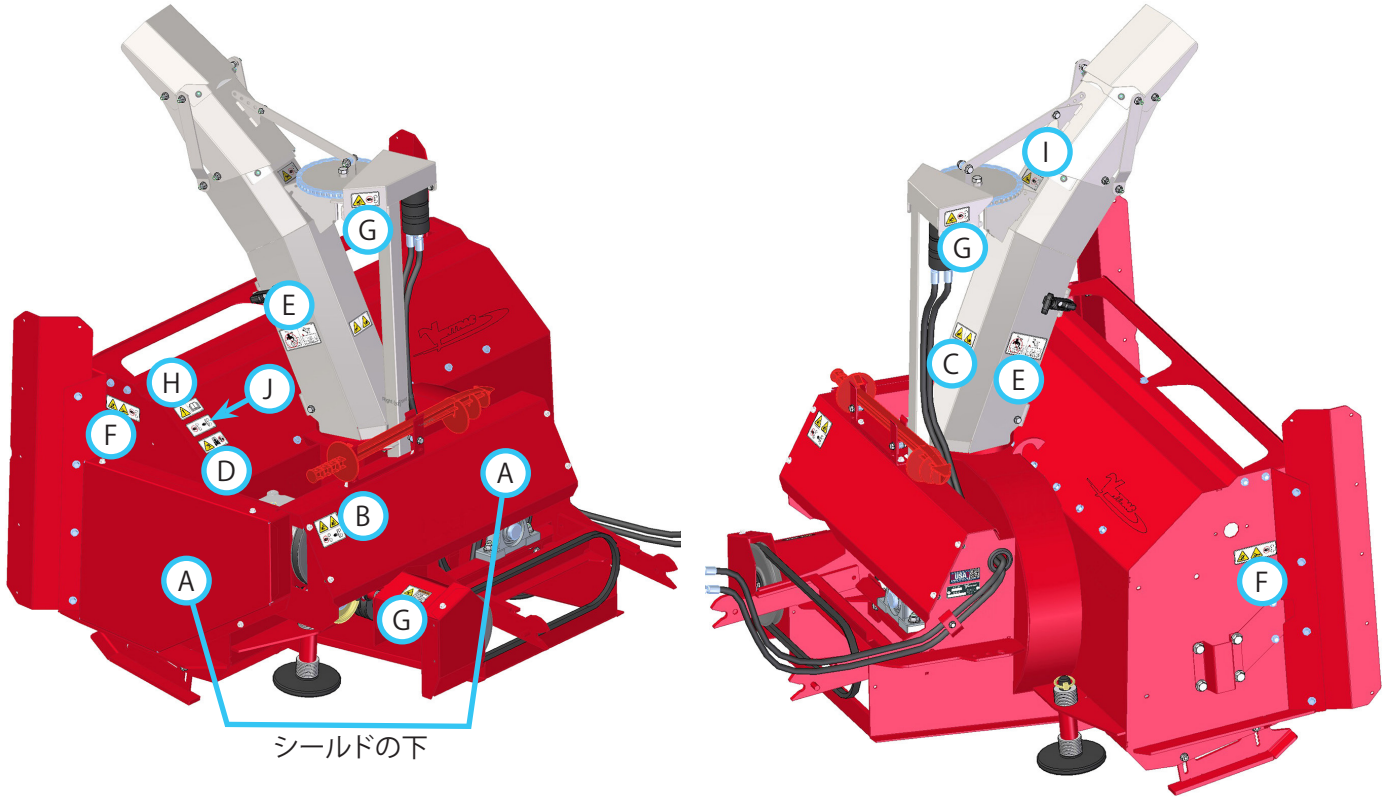
安全関係

安全デカル

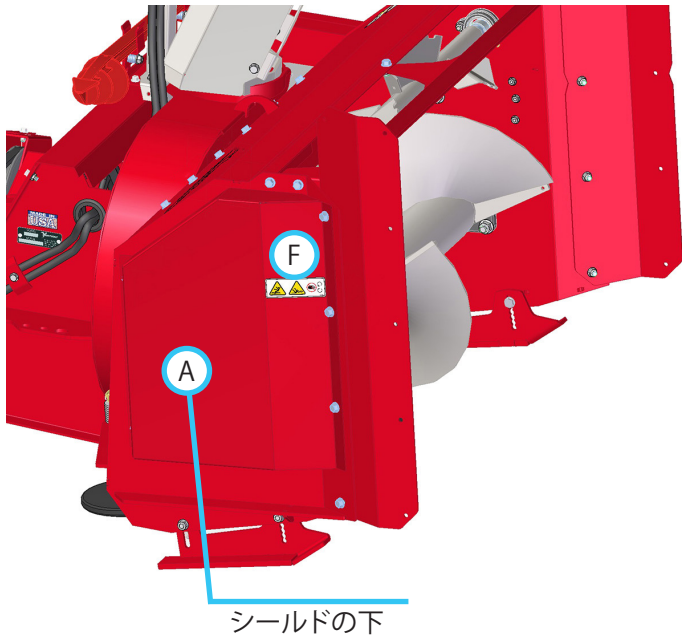
以下の安全デカルは必ずアタッチメントに貼付しておいてください。

安全デカルは全て読める状態に維持してください。安全や操作説明に関わるデカルはどれもグリスやほこりで汚れないように維持してください。デカルが色あせたり、読みにくくなったり、はがれてなくなったりした場合は、速やかに販売店に連絡して新しいデカルを入手してください。

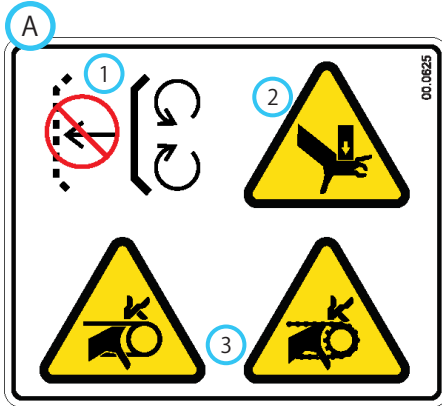
新しい機器などを取り付ける場合は、それに最新の安全デカルが貼られていることを確認してください。



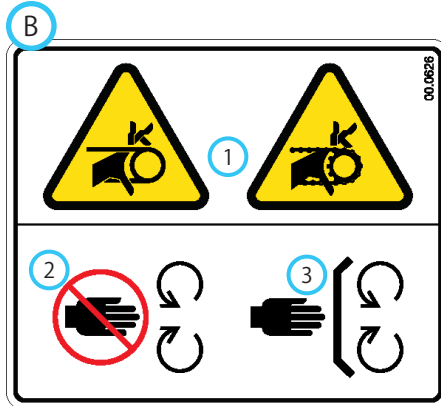
オプションの深雪オーガキット



安全関係



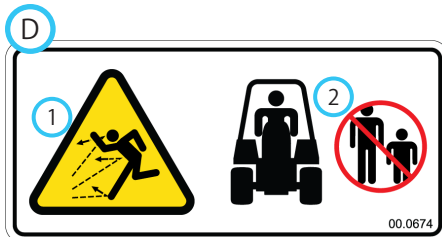
1. シールドが外れている: 取り付けて運転すること。
2. 身体を挟まれたりつぶされたりする危険。
3. 指や手が巻き込まれる危険。



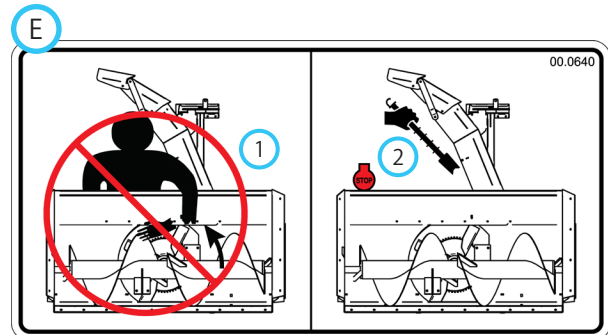
1. 指や手が巻き込まれる危険。
2. 可動部に近づかないこと。
3. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。



1. 油圧オイル漏れが疑われる場所に手や身体を近づけないこと。
2. 油圧オイル漏れを調べる時には、保護めがねを着用すること。



1. 異物が飛び出す危険。
2. 機械の周囲に人を近づけないこと。



1. 絶対に排出シュートに手を入れないこと。
2. マシンを停止し、シュート清掃ツールで詰まりを取り除く。

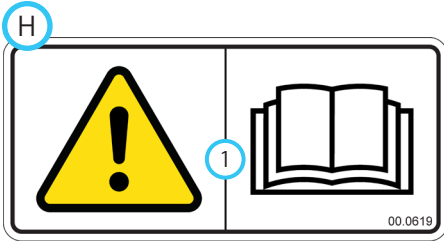


1. 足や脚部が巻き込まれる危険: 回転中のオーガ。
2. 腕や上半身が巻き込まれる危険: 回転中のオーガ。
3. 可動部に近づかないこと。



1. 指や手が巻き込まれる危険。
2. 可動部に近づかないこと。

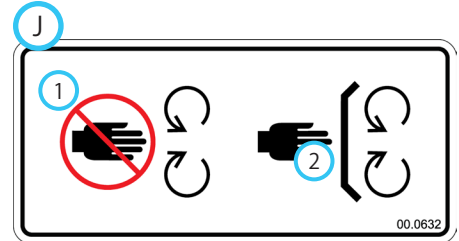
安全関係



1. オペレーターズマニュアルを読むこと。



1. 注意: 挟まれる危険可動部に近づかないこと。



1. 可動部に近づかないこと。
2. すべてのガードやシールドを正しく取り付けて運転すること。

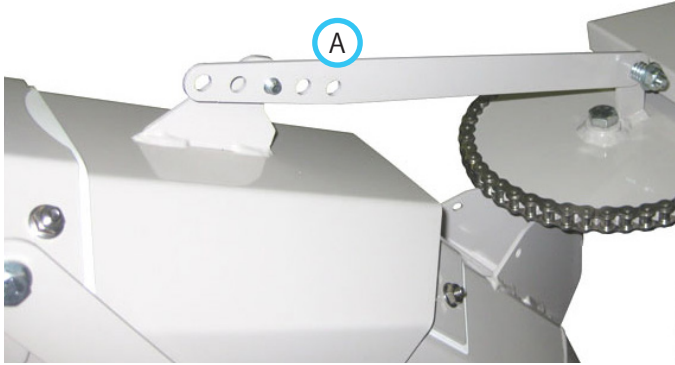
デカル	名称	パーツ番号	数量
A	シールドが外れている	00.0625	2 (3)
B	巻き込まれる危険	00.0626	1
C	高圧オイルの危険	00.0621	1
D	異物が飛び出す危険。	00.0674	1
E	排出シュートの安全確保	00.0640	2
F	巻き込まれる危険: オーガ	00.0630	2 (3)
G	指が巻き込まれる危険	00.0631	3
H	オペレーターズマニュアルを読むこと	00.0619	1
I	はさまれる危険の警告	00.0364	1
J	可動部品の危険	00.0632	1

運転装置

排出シュートの回転

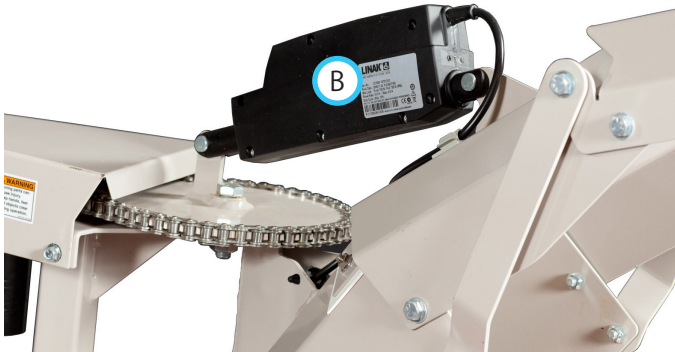
排出シュートの回転(向き)は、パワーユニットの2次 SDLA レバー*の油圧でコントロールします。排出シュートは、左右に角度をつけて(180度の範囲)、好きな方向に雪を飛ばすことができます。

排出シュートのデフレクタの調整リンク



排出シュートのデフレクタの調整リンク (A) は、排出シュートの角度(向きをコントロールします。この角度で投雪距離が決まります。

排出シュートのデフレクタの調整用アクチュエータ (オプション)



排出シュートのデフレクタの調整リンクの代わりに、オプションとしてアクチュエーターコントロール (B) があります。これは、パワーユニットの12V フロントスイッチ*を使用して、運転席にすわったままでデフレクタの角度を調整できるものです。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

日常点検

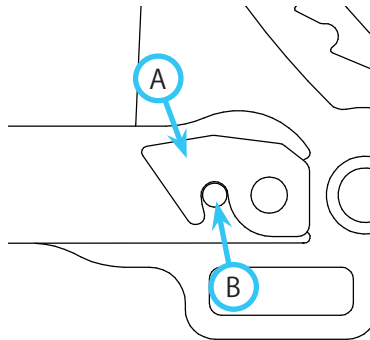


機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

1. 平らな場所にマシンを止め、エンジンを停止し、オイルなどが十分に冷えるのを待つ。
2. パワーユニットとアタッチメントの両方の目視点検を行う。ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。
3. 油圧ホースと「油圧フィッティング」を点検し、接続部がしっかりと締まっていてオイル漏れなどが無いことを確認する。
4. 駆動ベルトに傷や過度の摩耗がないか点検する。このマニュアルの「ベルトの点検」の項を参照。
5. ブレードのエッジ部とスキッドシューに磨耗がないか点検し、必要に応じて調整交換してください。

アタッチメントの取り付け

1. アタッチメントのヒッチアームまで、パワーユニットをゆっくり前進させる。パワーユニットの前ヒッチを上下させて昇降アームをアタッチメントのヒッチアームに合わせ、アタッチメントをパワーユニットに接続する。
2. 適切に接続されているのを確認したら、前ヒッチラッチレバー*をロックする。ラッチ (A) がアタッチメントのヒッチアームピン (B) に完全に掛かることが必要。
3. 駐車ブレーキ*を掛け、エンジンを止める。
4. アタッチメントの駆動ベルトを、パワーユニットのPTOの駆動プーリに取り付ける。それぞれのプーリにベルトが正しく掛かっていることを確認する。
5. PTOベルトのテンションロッドを締める。
6. 油圧ホースの端部をきれいにぬぐい、パワーユニットの油圧クイックカップラに接続する。複数組みのホースを接続する場合は、同じ色のホースどうしを接続する (赤カップラには赤ホースという風に)。
7. 電気プラグが装備されている場合は、パワーユニットに接続します。



アタッチメントの取り外し

1. 平らな場所でパワーユニットを停止させて駐車ブレーキ*を掛ける。
2. 重量移動システム*を解除してアタッチメントを床面まで降下させる。
3. パワーユニットのエンジンを止める。
4. PTOベルトのテンションロッドをゆるめる。
5. パワーユニットのPTOの駆動プーリから、アタッチメントの駆動ベルトを外す。
6. 油圧クイックカップラをパワーユニットから外し、ホースの端をアタッチメントのトップフレームの穴に収納する。
7. 電気プラグが装備されている場合は接続を外す。
8. 前ヒッチのロックレバー*を解除する。
9. パワーユニットのエンジンを再始動し、ゆっくりとバックしてアタッチメントから離れる。アタッチメントが外れにくい時は、ステアリングハンドルを左右に軽く回してタイヤを揺るとよい。

運転操作

運転開始前に始業点検を行い、スキッドシューが希望の高さに設定されていること、パワーユニットの重量移動システムの設定が最大になっていることを確認します。

除雪現場に移動し、スノーブローを地表面の高さまで下ろし、一次SDLAレバーをフロート位置にセットします。排出シュートを希望の方向にセットし、シュートのデフレクタを希望の角度に調整します。排出方向は、必ず、人のいない方向としてください。可能な限り、風向きに合わせて除雪してください。

パワーユニットのエンジン回転数を 2,000-2,500 rpm に調整し、PTOスイッチを入れます。スロットルを調整してエンジンの回転数を希望速度にします。

安全に注意しながら、ゆっくりと前進します。投雪方向を確認し、必要に応じて排出シュートの回転とシュートデフレクターの角度を調整してください。

*パワーユニットの制御装置の使い方については、パワーユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

運転操作全般について

アタッチメントを搬送する時

無駄な損耗を減らすため、パワーユニットのフロントヒッチとアタッチメントを一番上まで上げた状態で運搬してください。起伏の大きい路面や滑りやすい場所では、パワーユニットを確実にコントロールできるように、また、パワーユニットやアタッチメントへの衝撃を軽減するために、速度を十分に落として走行してください。アタッチメントを搬送する際は、必ずパワーユニットの PTO を解除してください。

排出シュートの回転

シュートを回転させたい方向(右または左)にレバーを動かしてください。目的の方向に向いたら、二次 SDLA レバーを離せば、シュートの回転が止まります。

排出シュートのデフレクタの調整(手動で)

排出シュートのデフレクタの調整リンクを希望の方向に引いて角度を調整します。調整リンクの穴をラッチボルトに合わせて手を離すと、排出シュートのデフレクタがその位置に固定されます。

排出シュートのデフレクタの調整(オプションのアクチュエータコントロールを使って)

パワーユニットの 12V スイッチを使って、排出シュートのデフレクタの位置を調整することができます。希望の角度になるまでスイッチを押し続け、希望の角度になった所でスイッチから手を離してください。

後スキッドシューの調整

スキッドシューを使うと、刃先を除雪面から少し浮かすことができるので、砂利を敷いてある道の除雪をする際に特に便利です。

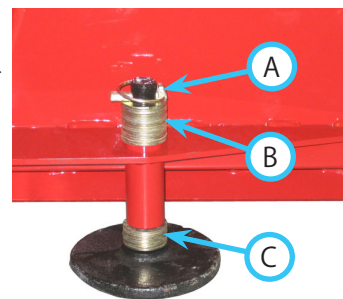
後スキッドシューの高さは、スキッドシューとスキッドシューマウントの間に入れるスペーサの数で調整します。使用しないスペーサワッシャーはマウントの上部に保管しておきます。

1. スキッドシューを希望の高さにするために、スペーサを何枚移動させる必要があるかを調べる。

警告

油圧ドリフトなどによって油圧が不意に解放されると、アタッチメントが下がって人や物が挟まれる危険がある。アタッチメントを上げた状態で調整を行う場合は、ブロックやジャッキスタンドでアタッチメントを確実に支えておくこと。

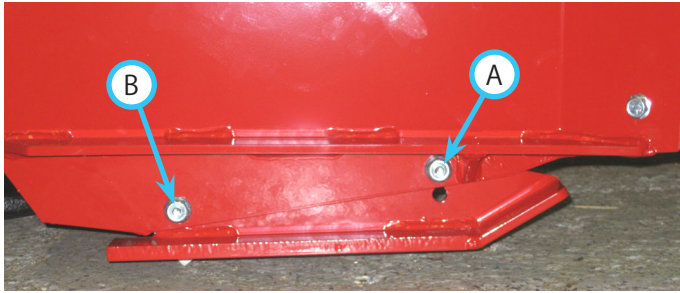
2. スノーブローアを一番高い位置まで上げ、角材やジャッキスタンドで確実に支える。
3. スキッドシューマウント上部のリンチピン(A)を抜き取り、スペーサ(B)を取り出す。
4. スキッドシューマウントの下部からスキッドシューを取り出す。
5. 希望するスキッドシューの高さになるようにスペーサ(C)の数を調整し、マウントにスキッドシューを挿入する。
6. 余ったスペーサをスキッドシューマウントの上にセットし、リンチピンでスキッドシューを固定する。
7. 左右のスキッドシューが同じ高さに設定されていることを確認する。
8. ジャッキスタンドを外し、ジャッキをゆるめてブローアを床に下ろす。



運転操作全般について

前スキッドシューの調整

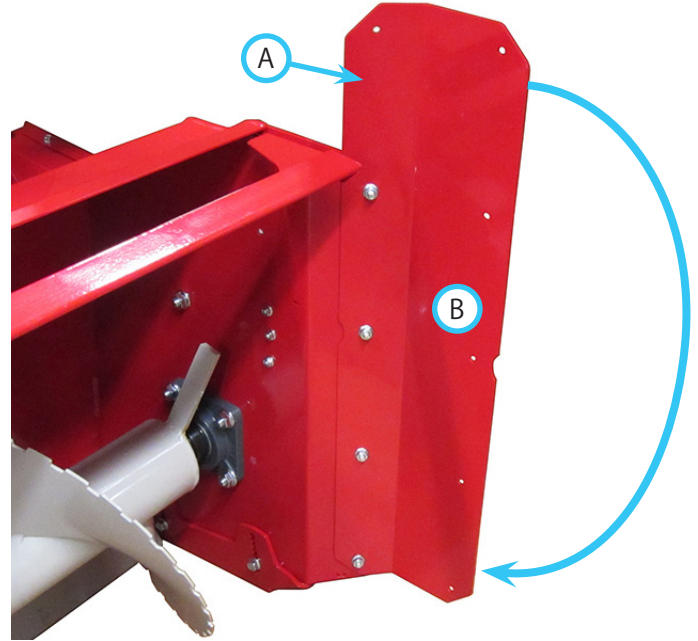
1. 後スキッドシューを正しい高さにセットした状態で、パワーユニットとスノーブローアを水平な場所に駐車する。
2. 後スキッドシューズが床面につくまで、ブローアを下げる。前のシューが後ろのシューよりも先に接地する場合は、後スキッドシューが床面に接地するようになるまで前側シューを上げる。
3. 前側シューの前側 (A) および後側 (B) の取り付けボルトをゆるめる。



4. スキッドシューの前側を下げなければならない場合は、前側取り付けボルト (A) を外してスキッドシューの前側を下げてから、取り付けボルトを元通りに取り付け。スキッドシューの後部には溝があるので、ボルトを外さずにシューを下向きに回転させることができる。
5. 前側スキッドシューの調整ができれば、取り付けボルトを 42 Nm (4.2 kg.m = 3 1 ft-lbs) にトルク締めする。

左右のエッジの調整

左右のエッジは、作業幅が132 cm (52") または137 cm (54") になるように調整することができます。ショートフランジ (A) をフレームに取り付けた場合、作業幅は132 cm (52") になります。ロングフランジ (B) を取り付けけた場合は、作業幅は137 cm (54") になります。



作業幅を切り替えるには、エッジを 180 度回転させます。左右のエッジプレートを入れ替えしないでください。

運転操作全般について

詰まりを解消するとき

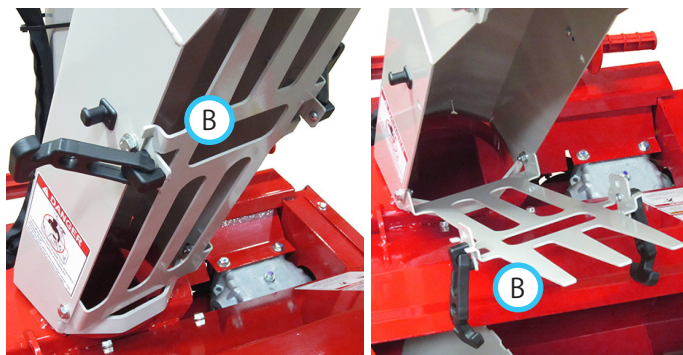
警告

詰まりの除去は絶対に、手で直接行わないこと。必ず、付属のシュートクリーニングツールを使って除去すること。
詰まりを解消するときは、手、足、衣服などを可動部に近づけないように十分注意して行うこと。
詰まりを解消した後は、必ず排出シュートガードを元の位置に固定すること。

1. スノーブローワーが詰まった場合は、直ちに PTO を停止し、パワーユニットを完全に停止させる。
2. 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止させ、イグニッションキーを抜き取る。
3. シュート清掃ツール (A) を使って、排出シュートやファンのスロット部分の詰まりを取り除く。



排出シュートガード (B) の上部を外して外側へ開くと、詰まりにアクセスすることができる。



4. シュート清掃ツールを使って、詰まっている雪のかたまりを砕き、排出シュートとファンのスロット部分の障害をなくす。
5. 排出シュートガードを元通りに取り付けてしっかりと固定する。

整備

警告

機械の点検、修理、調整などを行う時は、必ず駐車ブレーキを掛け、パワーユニットのエンジンを停止してイグニッションキーを抜き取り、機械のすべての動作が完全に停止していることを確認すること。

注意事項

交換部品は必ず Ventrac 純正品を使用すること。

機体の清掃と一般的な保守整備作業

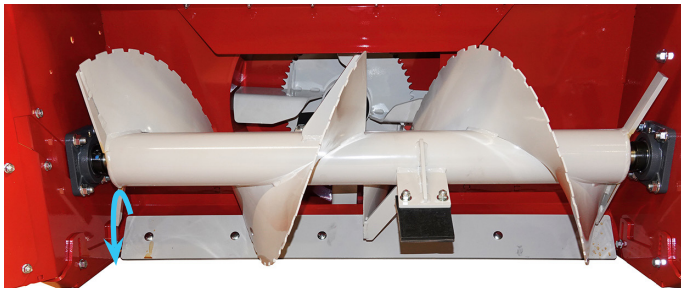
スノーブローの性能を維持し仕上げ面を保護するために、ブローは使用後に洗浄し、汚れや砂利、塩分などを取り除いてください。オーガ、ファンハウジング、ファン、排出シュートにたまっている氷や雪を取り除く。

注意事項

パワーユニットやアタッチメントの表面を保護するために、使用後は毎回洗い、腐食性の物質（融雪剤など）を除去しておくこと。洗浄を怠ると、鉄、アルミニウム、電気部品など（これら以外の様々なものに）腐食が発生する可能性がある。腐食を起こしやすい環境で繰り返し使用する機器は、あらかじめ防錆処理をしておくことが望ましい。

エッジの上下反転/交換

エッジがレームの近くまで磨耗した場合は、磨耗していない側（上刃）を下側にして再利用できます。



取り外して上下を逆にして取り付けなおしてください。両側が共に磨耗した場合は交換が必要です。

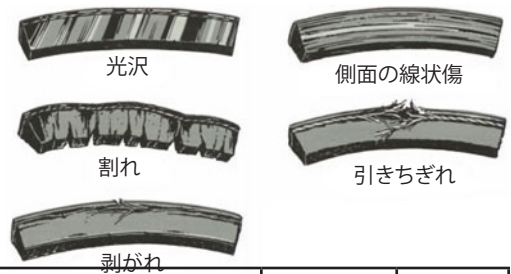
スキッドシューの交換

前後のスキッドシューとも、摩耗面の厚さが 3 mm 未満になったら交換する必要があります。

ベルトの点検

日常点検の一部としてアタッチメントの駆動ベルトを点検することにより、ベルトの劣化を早期に発見することができ、突然のベルト切れといった急なトラブルを防止することができます。

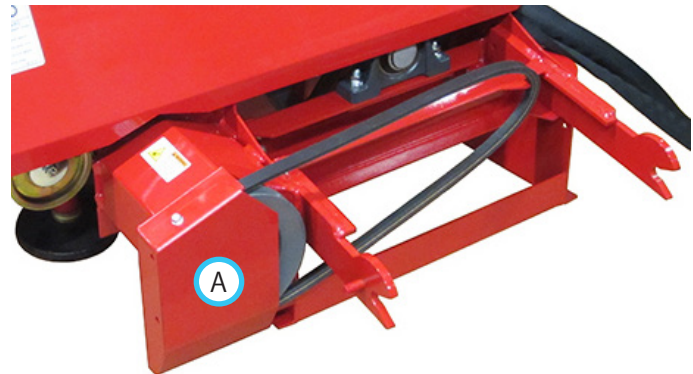
代表的な劣化状態を以下の図に示します。このような状態になったら、ベルトの交換が必要です。



ロケーション	ベルトのサイズ	パーツ番号
アタッチメント駆動ベルト	B50	81.B050
ギアボックス駆動ベルト	B35	81.B035
オーガ駆動ベルト (2)	B50	81.B050
ファン駆動ベルト	BX55	81.0157
トップオーガ駆動ベルト (オプションの深雪キット)	B40	81.B040

アタッチメント駆動ベルトの交換

1. スノーブローをパワーユニットから切り離す。
2. 駆動プーリのシールド (A) を外す。

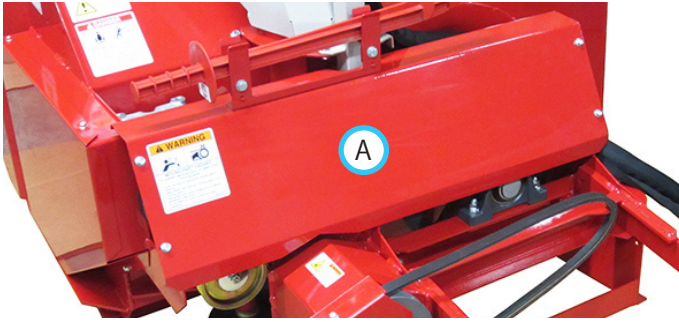


3. 古い駆動ベルトを取り外して、新しいベルトをプーリーに取り付ける。
4. 駆動プーリのシールド (A) を元通りに取り付け。ボルトを 11 Nm (4.3 kg.m = 100 in-lb) にトルク締めする。

整備

ギアボックスの駆動ベルトの交換

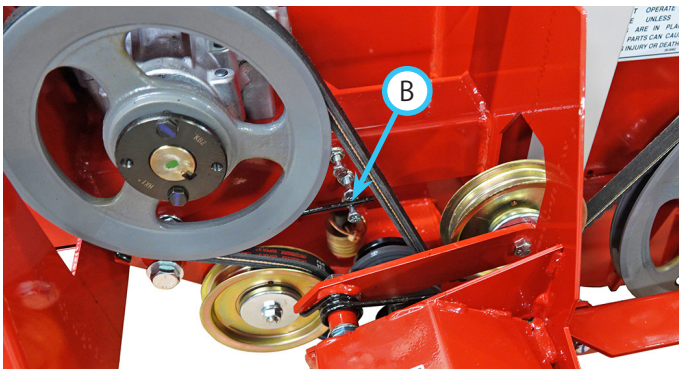
1. スノープロアから、メインの駆動カバー (A) を外す。



注意事項

ベルトのテンションスプリングは、力が掛かった状態になっている。バネを外すときに挟まれないように、バネのテンションに対抗できる状態で作業すること。

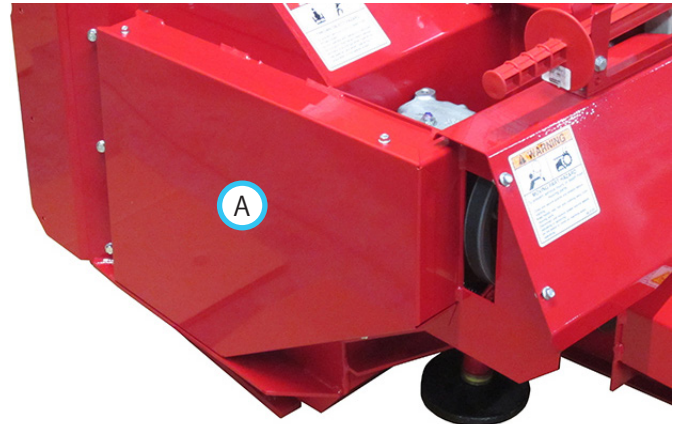
2. ギアボックス駆動ベルトのテンションスプリング (B) を解除する。



3. 古いベルトをプーリから外し、新しいベルトを取り付ける。
4. ギアボックス駆動ベルトのテンションスプリングを取り付ける。
5. メイン駆動カバーを元通りに取り付ける。ボルトを 11 N·m (1.2 kg·m) にトルク締めする。

オーガ駆動ベルトの交換

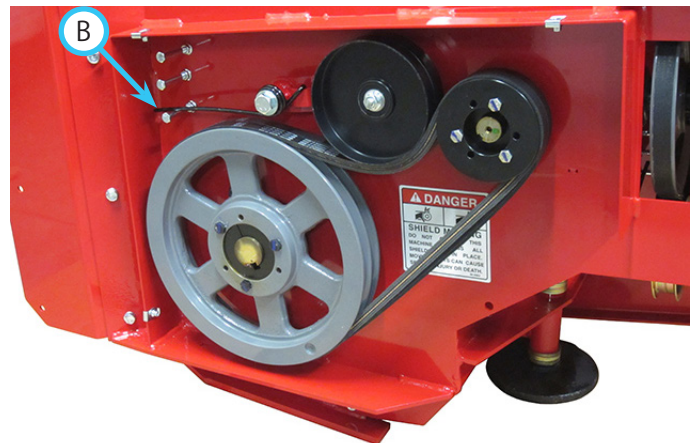
1. スノープロアから、オーガ駆動ベルトのカバー (A) を外す。



注意事項

ベルトのテンションスプリングは、力が掛かった状態になっている。バネを外すときに挟まれないように、バネのテンションに対抗できる状態で作業すること。

2. オーガ駆動ベルトのテンションスプリング (B) を解除する。

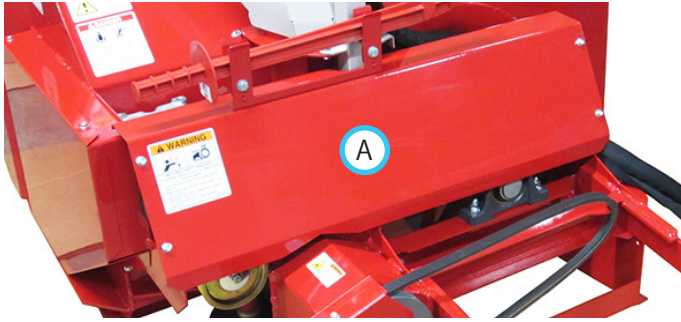


3. 古いオーガ駆動ベルトをプーリから取り外して、新しいベルトに交換する。
4. オーガ駆動ベルトのテンションスプリングを取り付ける。
5. オーガ駆動ベルトのカバーを取り付ける。ボルトを 11 N·m (1.2 kg·m) にトルク締めする。

整備

ファン駆動ベルトの交換

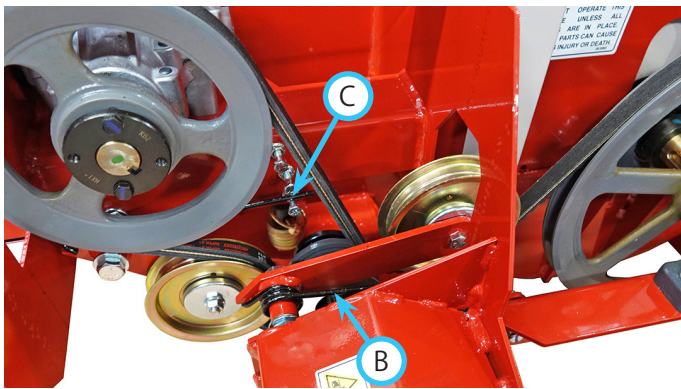
1. スノーブローアから、メインの駆動カバー (A) を外す。



注意事項

ベルトのテンションスプリングは、力が掛かった状態になっている。バネを外すときに挟まれないように、バネのテンションに対抗できる状態で作業すること。

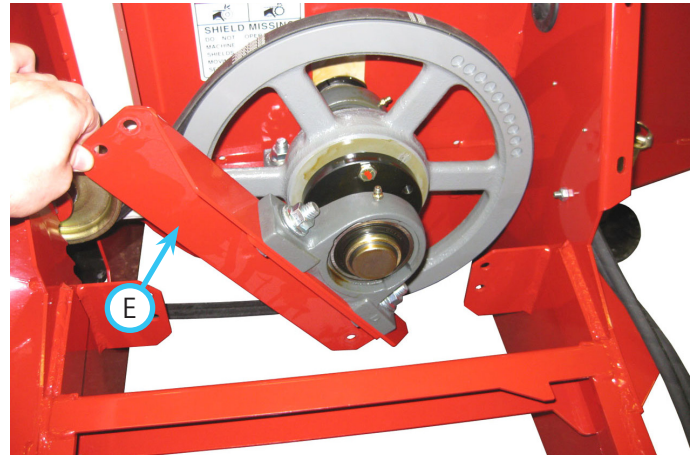
2. ファン駆動ベルトのテンションスプリング (B) とギアボックス駆動ベルトのテンションスプリング (C) を解除する。



3. ギアボックス駆動ベルトを取り外す。
4. 後部ファンのシャフト用ベアリングマウントから 4 本のボルト (D) を外す。



5. ベアリングマウント (E) を図のように回転させると、ファンベルトを取り外すことができる。

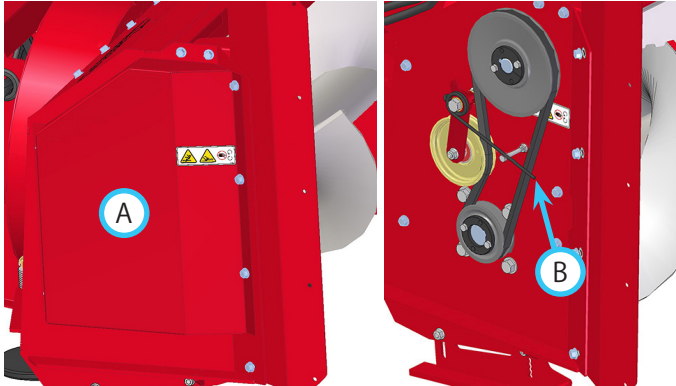


6. 古いファン駆動ベルトをプーリから外し、ベアリングマウントとフレームの間を通して取り出す。
7. 新しい駆動ベルトをプーリに取り付ける。
8. ベアリングマウントを元の位置に戻し、4本のボルトで固定する。締め付けトルクは 42 N·m (4.3 kg·m)
9. ギアボックス駆動ベルトを元通りに取り付ける。
10. ファン駆動ベルトとギアボックス駆動ベルトのそれぞれにテンションスプリングをかける。
11. メイン駆動カバーを元通りに取り付ける。ボルトを 11 N·m (1.2 kg·m) にトルク締めする。

整備

深雪オーガ駆動ベルトの交換

1. スノーブローの右側から、トップオーガ駆動ベルトカバー (A) を外す。



注意事項

ベルトのテンションスプリングは、力が掛かった状態になっている。バネを外すときに挟まれないように、バネのテンションに対抗できる状態で作業すること。

2. 深雪オーガベルトのテンションスプリング (B) を解除する。
3. 古いベルトをプーリから外し、新しいベルトを取り付ける。
4. 深雪オーガベルトのテンションスプリングを取り付ける。
5. 深雪オーガ駆動ベルトのカバーを取り付ける。ボルトを 24 Nm·m (1.2 kg·m = 210 in·lb) にトルク締めする。

ベルトのテンションの調整

ベルトの張りは、スプリングアームの取り付け先(ベルトテンションのノッチやボルト)を変えて調整します。バネの張力は、通常の操作に必要な最小限に設定する必要があります。こうすることにより、仮にオーガやファンが動かない物体に当たって停止した場合でも、ベルトがある程度滑って、ギアボックスや駆動部品を保護することができます。普通に使っているのにベルトが滑る場合は、ベルトが滑らなくなるまでベルトの張力を少しずつ上げてください。

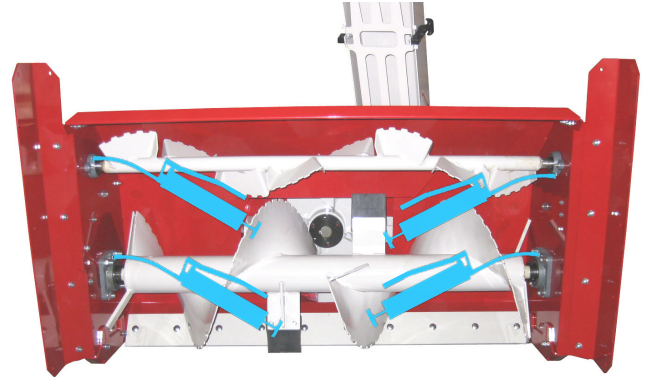
潤滑ポイント

以下の箇所には、リチウム系複合 NLGI #2 グリスによる潤滑を行ってください。

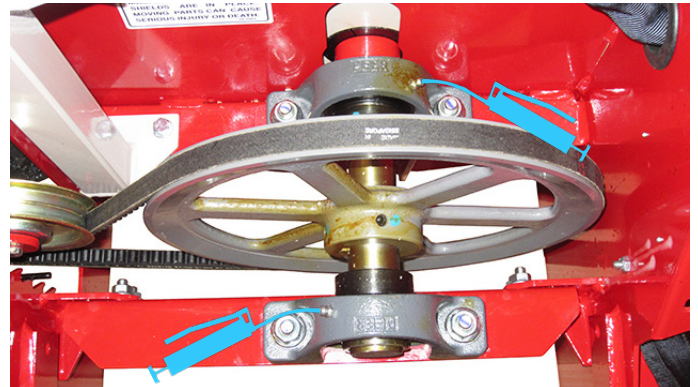
グリスフィッティングにグリスガンを接続する前に、グリスフィッティングの汚れを拭き取ってください。

整備間隔とグリスの量については、定期整備項目一覧表を参照してください。

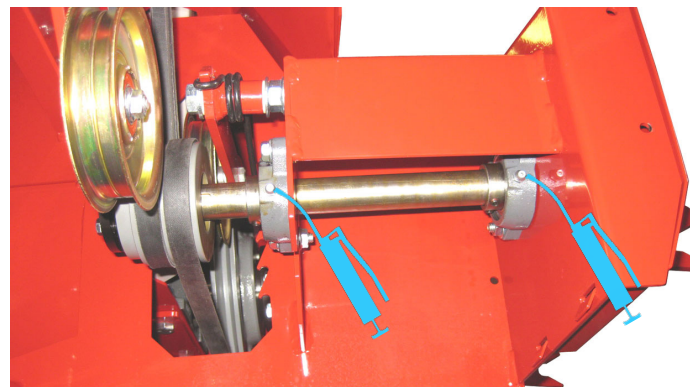
1. メインオーガベアリングと深雪トップオーガベアリング (装備されている場合) をグリスアップする。



2. ファンシャフトのベアリングのグリスアップを行う。

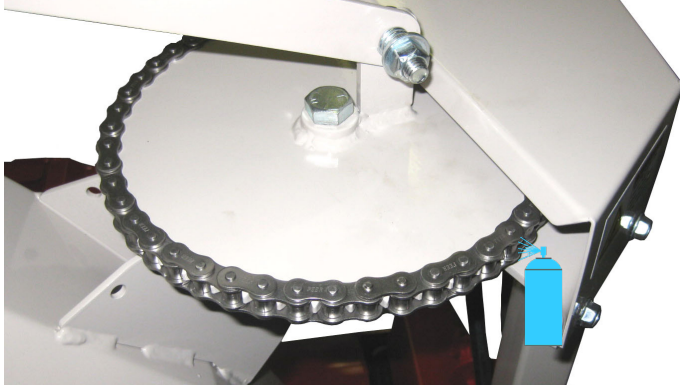


3. 駆動シャフトのベアリングをグリスアップする。



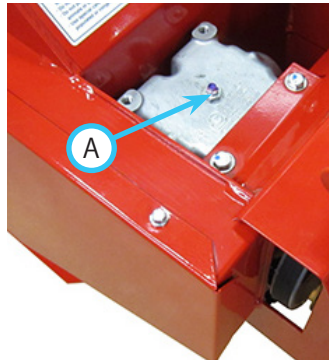
整備

4. シュート回転用のチェーンにオイルを塗る。



ギアボックスオイルの量の点検

1. スノーブローアをパワーユニットから切り離す。
2. ギアボックスの上部をきれいに拭き、上部ポートからブリーザプラグ(A)を取り外す。
3. ギアボックス内の油量を点検する。オイルレベルは約半分の高さまに維持するのが良い。オイルが少ない場合は、適正レベルまで 80-90 合成ギアオイルを追加する。
4. ギアボックスの上部ポートにブリーザプラグを元通りに取り付ける。



ギアボックスオイルの交換

1. スノーブローアをパワーユニットから切り離す。
2. ギアボックスの上面と底面をきれいに拭く。
3. ギアボックスの上部ポートについているブリーザプラグを取り外す。
4. ギアボックスの下にオイルを受ける容器をおく。
5. ギアボックスの底部ポート(ブリーザプラグの真下)からパイププラグを取り外し、排出されるギアオイルを回収する。
6. ギアボックスの底部ポートにパイププラグを元通りに取り付ける。
7. 80-90 合成ギアオイルを適正レベル(おおよそ半分の高さ)まで入れる。
8. ギアボックスの上部ポートにブリーザプラグを元通りに取り付ける。

格納保管

アタッチメントの格納保管準備

1. アタッチメントにたまっているごみ、小石、融雪剤などをきれいに取り除く。
2. ゆるんだり外れたりしている部品や、機器の破損や摩耗がないか点検する。摩耗・破損した機器は交換する。
3. 油圧ホースとフィッティングを点検し、接続部がしっかり締まっていてオイル漏れがないことを確認する。
4. 駆動ベルトに劣化や損傷の兆候がないか点検し、必要に応じて交換する。
5. ブレードのエッジ部とスキッドシューに磨耗がないか点検し、必要に応じて交換する。
6. 安全デカルを点検する。色あせ、判読不能、または欠落しているデカルは交換する。
7. グリスポイント全部にグリスを注入する。はみ出たグリスは拭き取る。シュート回転用のチェーンにオイルを塗る。
8. ギアボックスオイルの量を点検する。
9. 塗装部分に剥がれ、ひっかき傷、錆などがないか点検する。必要に応じてタッチアップする。

保管状態から通常使用状態への復帰

1. アタッチメントにたまっているごみやほこりを除去する。
2. このマニュアルの「日常点検」の手順に従って、アタッチメントの点検を行う。
3. 試運転を行って、すべてのコンポーネントとシステムが正常に動作することを確認する。

整備

整備スケジュール

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	グリスと注油:潤滑の章を参照																							
				毎日	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	650時間	700時間	750時間	800時間	850時間	900時間	950時間	1,000時間	1年ごと		
オーガシャフトベアリング	2	1	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
駆動シャフトのベアリング	2	1	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
ファンシャフトベアリング	2	1	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
オプションのトップオーガのシャフトベアリング	2	1	**	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
シュート回転用ローラチェーン	1		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
ギアボックスオイルの量の点検					✓					✓					✓												
ギアボックスオイルの交換				✓											✓										✓		
点検																											
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認				✓																							
ベルトとプーリの点検				✓																							
エッジブレードとスキッドシューの点検				✓																							
油圧ホースとフィッティングの点検				✓																							
安全デカルの点検				✓																							

**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。

定期整備チェックリスト

	箇所数	ポンプの数	必要に応じて	グリスと注油:潤滑の章を参照																							
				毎日	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	450時間	500時間	550時間	600時間	650時間	700時間	750時間	800時間	850時間	900時間	950時間	1,000時間	1年ごと		
オーガシャフトベアリング	2	1	**																								
駆動シャフトのベアリング	2	1	**																								
ファンシャフトベアリング	2	1	**																								
オプションのトップオーガのシャフトベアリング	2	1	**																								
シュート回転用ローラチェーン	1		✓																								
ギアボックスオイルの量の点検																											
ギアボックスオイルの交換																											
点検																											
機器・部品のゆるみ、欠落、損も度の確認																											
ベルトとプーリの点検																											
エッジブレードとスキッドシューの点検																											
油圧ホースとフィッティングの点検																											
安全デカルの点検																											

**苛酷な条件下で使用している場合には、より頻繁な点検・整備が必要となります。

仕様

寸法

全高.....	143.5 cm
全長.....	124.5 cm
全幅.....	132 cm
重量.....	233.6 kg
オーガの開口幅.....	122 cm
メインオーガの直径.....	40.6 cm
メインオーガの速度.....	197 RPM*
オプションのトップオーガの直径.....	20.3 cm
オプションのトップオーガの速度.....	105 RPM*
ファンの直径.....	49.5 cm
ファンシャフトの速度.....	790 RPM*
シュートの旋回範囲.....	180 度
投雪距離.....	約 10.7 - 12.2 m
除雪能力**.....	2,041 kg/分

*エンジン回転数 3,200 RPM の時

**除雪能力は条件によって変わります。

特長

- 2 ステージ (二段式) 除雪機
- 上下方向の排出シュート調整 (手動)
- 左右方向の排出シュート制御 (油圧)
- シャフトとベアリングは超ヘビーデューティ仕様
- スキッドシュー (前と後) の調整が可能
- シュート清掃ツール
- 排出シュートの上下位置の遠隔調整 (電動) (オプション)
- 深雪用トップオーガ (オプション)

最新のおペレーターズマニュアルはこちら
へ: ventrac.com/manuals
パーツマニュアルもダウンロードできます。

すべてのマニュアル
を見る

